

宇根豊 著

百姓学宣言

——経済を中心にしない生き方



四六判352頁
定価2730円(税込)

本当に「強い農業」とは、おカネでも効率でもない。アジアの富裕層向けに米や野菜、果物を輸出することでもない。百姓は田んぼで稲とともに5668種ものいのちを育み、むらの風景をつくっている——。

「百姓学」とは徹底的に、むらの内側＝「在所」からの視点に立ち、水管理と田まわり、除草と草取りはどうちがうか、といったように、日常の農の営みから、農業「技術」にはない百姓「仕事」のもつ意味を明らかにしていくこと。

国家の自給率は家の自給率へ、農業の多面的機能や生物多様性は「田んぼのめぐみ」へ、農の外側からきた客観的指標を百姓仕事の視点から置き換えていき、地域の自然を豊かに引き継ぐ百姓のあり方を提言する。

著者は福岡県の農業改良普及員として1978年から減農薬稲作運動を展開、新規就農・早期退職後は「農と自然の研究所」を開いて、「田んぼの生き物調査」を全国に広げてきた。その30年の実践と思索を集大成する本。

目次

序 章	在所の内からのまなざし
第1章	技術ではなく仕事が大切[仕事論]
第2章	自然を見つめる[自然論・風景論]
第3章	世界を感じる時[世界認識論]
第4章	経済で生きているのではない[近代化論]
第5章	仕事の自給、くらしの自給[自給論]
第6章	伝えるということ[表現論]
終 章	農学から百姓学へ



うね・ゆたか

1950年長崎県島原市生まれ。福岡県農業改良普及員在職中の1978年から福岡県下で減農薬運動を提唱。1989年福岡県二丈町に新規参入で就農。2000年福岡県職員を退職。2001年「農と自然の研究所」設立、代表理事。2010年同解散。農水省生物多様性戦略検討会委員、福岡県景観審議会委員などを務める。生き物文化誌学会理事。農学博士。